

末梢性顔面神経麻痺（重症例）に対して 茎乳突孔部にステロイドを局注した例

伊丹市・谷口耳鼻咽喉科 谷口 紀善（医師）

末梢性顔面神経麻痺の治療法として、ステロイド剤の投与・点滴や手術を行うことが多いが、今回は当院で行った茎乳突孔部へのステロイド局所注射によって改善した例を紹介する。

顔面神経は内耳や中耳のある部分の側頭骨の細い骨管の中を通り、茎乳突孔より外に出て、耳下腺を通過して顔面へ分布しており、この茎乳突孔部より出る顔面神経に針を刺し、ステロイド注射をする方法。

この方法は、ステロイド治療のしにくい糖尿病患者であっても有効であり、特に難治症例でも局所注射をする（場合によっては2～3回）ことで、翌日にはほとんど完治することもある。

また、ステロイドは使わないが、顔面痙攣時にも、茎乳突孔部より出る顔面神経に0.5%キシロカイン0.5ml注でごく軽い麻痺を起こすことで痙攣が止まることを確認した後、0.1%程度のフェノールを0.1-0.3ml注入することで約6ヶ月は痙攣を抑える方法もある。